

II. 概要

1. はじめに

霊長類研究所の平成 22 年度の概要を述べる。まず沿革をかんたんに紹介する。人間を含めた霊長類の基礎的な研究を総合的に推進するものとして、日本学術会議の設立勧告を受けて、昭和 42 年（1967 年）に、京都大学に附置された。平成 22 年度から、従来の全国共同利用研究所という制度から、共同利用・共同研究拠点という新制度に移行したが、主旨はかわらない。霊長類研究についての国内拠点であり、世界に開かれた国際拠点である。

4 つの研究部門が研究所の中核である。進化系統、社会生態、行動神経、分子生理の 4 部門で、「こころ・からだ・暮らし・ゲノム」という 4 つの観点から人間の本性とその霊長類的基盤の研究をしている。4 部門のもとに合計 10 の分野がある。10 の分野はそれぞれ、教授 1・准教授 1・助教 1 の 3 名から構成され、従来の講座に近い。分野によっては、外部資金を基礎に、特定教員を数名雇用している。いわばこの 10 の学問分野から、霊長類の多様な研究を総合的に推進している。

研究部門には、4 大研究部門のほかに、時限の研究部門がある。寄附金をもとに運営される「寄附研究部門」と、特定のミッションをもった「研究プロジェクト」である。平成 22 年度の寄附研究部門としては 2 つある。「比較認知発達（ベネッセコーポレーション）研究部門」は、人間とチンパンジーの認知発達の比較研究をおこなっている。「ボノボ（林原）研究部門」は、チンパンジーの別種であるボノボに焦点をあてた研究をおこなっている。さらに、「白眉プロジェクト」と呼ぶ研究プロジェクトでは、京大が平成 21 年度から始めた白眉プロジェクトに採用された研究者を受け入れている。なお時限の研究部門の教員は、時限という性格上、すべて特定教員である。

2 つの附属研究施設が、多様な研究の下支えをしている。「人類進化モデル研究センター」は、兼任のセンター長 1 名（平井啓久教授）、専任教員 5 名、特定教員 1 名、技術職員 8 名と、サル類飼育の現場を担う多数の研究支援推進員・技能補佐員から構成される。人類センターは、「飼育一元化」という旗印のもとで、霊長類研究所の保有するすべてのサル類 14 種 1200 個体を健康に維持している。

もうひとつの附属施設である「国際共同先端研究センター」は、兼任センター長 1 名（所長兼任）と、特定教員 3 名、再雇用技術職員 2 名、特定事務職員 1 名から構成される。なお、平成 23 年度から専任教員と特定職員と外国人特定研究員の各 1 名を措置する予定である。国際センターは、平成 21 年度に発足した比較的新しい組織で、霊長類学の国際共同研究を推進し、分野を超えた先端萌芽研究の醸成を目的としている。その一環として、平成 22 年度入学から始まった外国人留学生のための大学院教育「国際霊長類学・野生動物コース」の宣伝と入試業務を担当している。なお短期・長期に来日する外国人研究者や、国際集会等の世話もその業務であ

る。

事務部には、事務長以下の事務職員 9 名と多数の非常勤職員が在職し、研究所の基盤となる事務作業をおこなっている。なお、霊長類研究所が基盤となって平成 20 年に京都に創設された「野生動物研究センター」の事務も、歴史的な経緯から、霊長類研究所が担当している。

霊長類研究所は、大学院教育をおこなっている。大学院生はすべて、理学研究科生物科学専攻の学生である。常勤の教員も全員が生物科学専攻の教員として大学院教育に関わっている。霊長類研究所と野生動物研究センターの 2 部局が協力して、「霊長類学・野生動物系」を構成し、他の動物学系・植物学系・生物物理学系と連携した 4 系で生物科学専攻を構成し、共通の大学院入試をおこなってきた。修士課程・博士課程を合わせて約 30 名の大学院生が霊長類研究所で学んでいる。野生動物研究センターの大学院生は、霊長類学・野生動物系の中の 1 分科「野生動物分科」を構成しており、上記の数には組み入れていない。なお、外国人だけを対象として 1 学年 5 名の採用枠を確保して、英語で入試をする「国際霊長類学・野生動物コース」を設立した。平成 22 年度に 3 回の入試をおこない、平成 23 年度当初から 3 名の修士学生が入学した。韓国 2 名とバングラデシュ 1 名である。上部組織である理学研究科の方針で、平成 21 年度は各大学院生に正副 2 名の指導教員を配した。なお、外国人学生には、来日当初の 1 年間、大学院生のチューター（謝金支給あり）が付く。教育や研究のみならず日常生活の支援を業務とする。

大学院生ならびにポスドク等の若手研究者が霊長類学の未来を担っている。研究所は、正規の大学院生のほかに、特別研究学生として他大学の大学院生を受け入れている。博士学位取得後のいわゆるポスドクとしては、日本学術振興会の特別研究員ならびに外国人特別研究員を受け入れている。研究所の受託事業としてのナショナルバイオリソースやグローバル COE 等の外部資金による研究員もいる。さらに、研究所に割り当てられる研究員ポストが 3 つある。さらには、各分野や施設の教員の科学研究費等の外部資金でポスドクが雇用されている。そのほかに、博士学位取得以前の若手研究者については教務補佐員というような職種で雇用している。

霊長類研究所の運営は、創立以来 44 年間、月例で開催される「協議員会」で審議し決定してきた。設立時の 1960 年代後半という時代の雰囲気の色濃く残したきわめて民主的な制度であり、特定職員を除く常勤の教員すべてが構成メンバーである。他の研究機関や部局の「教授会」に相当する組織であるが、創立以来不変の方針として、教授・准教授・助教という職階に関わらず全員が協議員として平等に扱われる。したがって協議員会の議事録等に反映される協議員の序列は、職階ではなくて着任順になっている。協議員会には事務長と 3 掛長が陪席する。なお、入試や授業など大学院教育については、従来、協議員会に先立つ「（霊長類学・野生動物）系教員会議（霊長類研究所開催）」で審議してきた。構成メンバーは協議員会と同じだが、平成 22 年度からは国際センターの 3 特定教員も系会議のみに参加することとした。

所長の諮問機関として研究所の運営を審議する「運営

委員会」がある。運営委員は協議員会の投票で決定し、主として所外・学外の有識者に依頼している。任期は7月1日からの2年間で、年2回開催している。平成22年度は改選の時期にあたっていなかった。

また、共同利用・共同研究拠点としての運営については「拠点運営協議会」を平成22年度から正式に発足させた。そのもとに具体的な作業をする「専門委員会」を設けた。いずれも学外の研究者が半数以上を占める構成にして、より全国の研究者に開かれた制度とした。共同利用・共同研究の公募・審議・採択等については、従来は研究所の共同利用実行委員会がおこなっていたが、平成22年度からは拠点運営協議会に一任することになった。共同利用研究の主旨に鑑み、所外・学外の研究者コミュニティに主導していただくためである。

本年報の発行にあたって、平成22年度の教員の交代について述べる。新任8名、配置換え2名、離任1名である。平成22年度に着任した定員教員は、岡本宗裕、平崎鋭矢、郷康広である。特定教員の着任は、山本真也、倉岡康治、泉明宏、吉田友教、フレッド・ベルコビッチ、デイビッド・ヒル、足立幾磨（特別推進研究から国際センターへの配置換え）である。年度途中に、松井智子准教授が東京学芸大の教授として転出した。また、國松豊助教が理学研究科准教授に配置換えとなった。定年退職の教員はなかった。近年の研究所の教員構成は著しく流動的で若返った。平均して教授50歳台、准教授40歳台、助教30歳台、そして20歳台のポスドク・大学院生という構成になっている。

平成22年度の事務職員については、年度当初に、事務長が小倉一夫から八木定行に替わった。総務掛長が細川明宏から小野一代、会計掛長が河田友彦から川俣昭に替わった。研究助成掛長は新野正人で留任したが、平成22年度末をもって転任して、平成23年度は上垣泰浩が着任した。また他の事務職員としては、22年度途中で上川憲史と田中雄三の2名が離任して、新たに原田陽介と岩村智の2名が着任し、菅野隆道が22年度末で離任し、大池勇司が23年度から着任した。

平成22年度の特記事項として、「ニホンザル血小板減少症」について述べる。平成13年（2001年）7月26日に、当時11歳のメスのニホンザルが原因不明の疾病を発症し、2日後の28日に亡くなった。血小板等の減少による極度の貧血を呈する。まる1年後の7月31日までのあいだに、6頭が同様の症状で亡くなった。その後、約6年間の平穏期があって、平成20年（2008年）3月12日に、当時12歳のオスのニホンザルが同様の症状を呈して約3か月後に死亡した。その後も死亡があいづぎ、感染症と判断して、所内外の総力を結集してその解決に取り組んだ。『霊長類研究』平成22年6月号を参照されたい。京大ウイルス研究所、阪大微生物病研究所、国立感染症研究所、予防衛生協会の協力を得て、多面的な検討をおこなった結果、カニクイザルが自然感染しているレトロウイルスSRV4が原因だと特定できた。それをもとに徹底的な封じ込めによって、この1年間発症はない。一応の終息をみた。関係各位の努力に深甚の謝意を表したい。

平成22年度も、前年度から引き続いて、研究所として取り組む大型事業を外部資金によって推進してきた。一連のHOPE事業や、グローバルCOE事業、その他の受

託研究である。これらの詳細については、本報告書の当該箇所を参照されたい。

平成22年度の特記事項としては、文部科学省の最先端研究基盤支援事業として、心の先端研究の国際連携をめざす「WISH事業」が採択された。平成22年3月に日本学術会議が認定した我が国が推進すべき大型研究マスタープラン43件のひとつである。全43課題が文部科学省の審議委員会でヒアリングを受け、そのうちの9件に最先端研究基盤支援事業が助成された。これにより平成22-24年度の3年間で14億円をかけて、比較認知科学実験設備3台とfMRI設備1台を京都大学に設置することになった。WISH事業は8研究機関の連携事業だが、その中核機関が京都大学であり、そのさらに中核として事務作業を総括する部局が霊長類研究所である。平成22年12月12日に、WISH事業の受け皿として京都大学に「心の先端研究ユニット」が新たに設置され、霊長類研究所が初代の事務担当することになった。

平成22年度をもって、特別教育研究経費「リサーチリソースステーション」（RRS事業）が終了した。最終年度の主要な事業として、官林地区の大型グループケージを平成21年度に続いてさらに1棟新設した。これで2棟の新設ができたので残りは1棟である。RRS事業は、平成14年度に検討を開始し、平成15年度に予備的準備経費の措置があり、平成16-17年度の施設整備を経て、平成18-22年度の5年間の特別教育研究経費によって設立し運営してきたものである。研究所の東に第2キャンパスを設け、合わせて官林地区の検疫舎や大型ケージの整備も進め、ニホンザルの繁殖供給体制が確立した。

これまでRRS事業の展開に尽力され、すでに研究所を去られた、歴代の小嶋祥三所長と茂原信生所長、人類進化モデル研究センターの松林清明教授と景山節教授、井山有三事務長と小倉一夫事務長、そしてここでは紙幅の関係でお名前を挙げられない多数の方々のご尽力に深く感謝したい。とくに、そうした方々を代表して、1名だけお名前を記す。平成21年度末で退職された熊崎清則技術職員である。RRSの構想当初から関わり、設計・施工・運営について、そして初代のRRS担当技術職員として活躍していただいた。またそれを可能にしたのは、主として飼育現場の作業を担当する人類進化モデル研究センターの技術職員と研究支援推進員、そして膨大な事務作業を支えてきた会計掛をはじめとする歴代の事務職員である。表にはあらわれないが、そうした彼らの努力なしにRRS事業は完遂できなかった。その努力に深甚の敬意を払いたい。

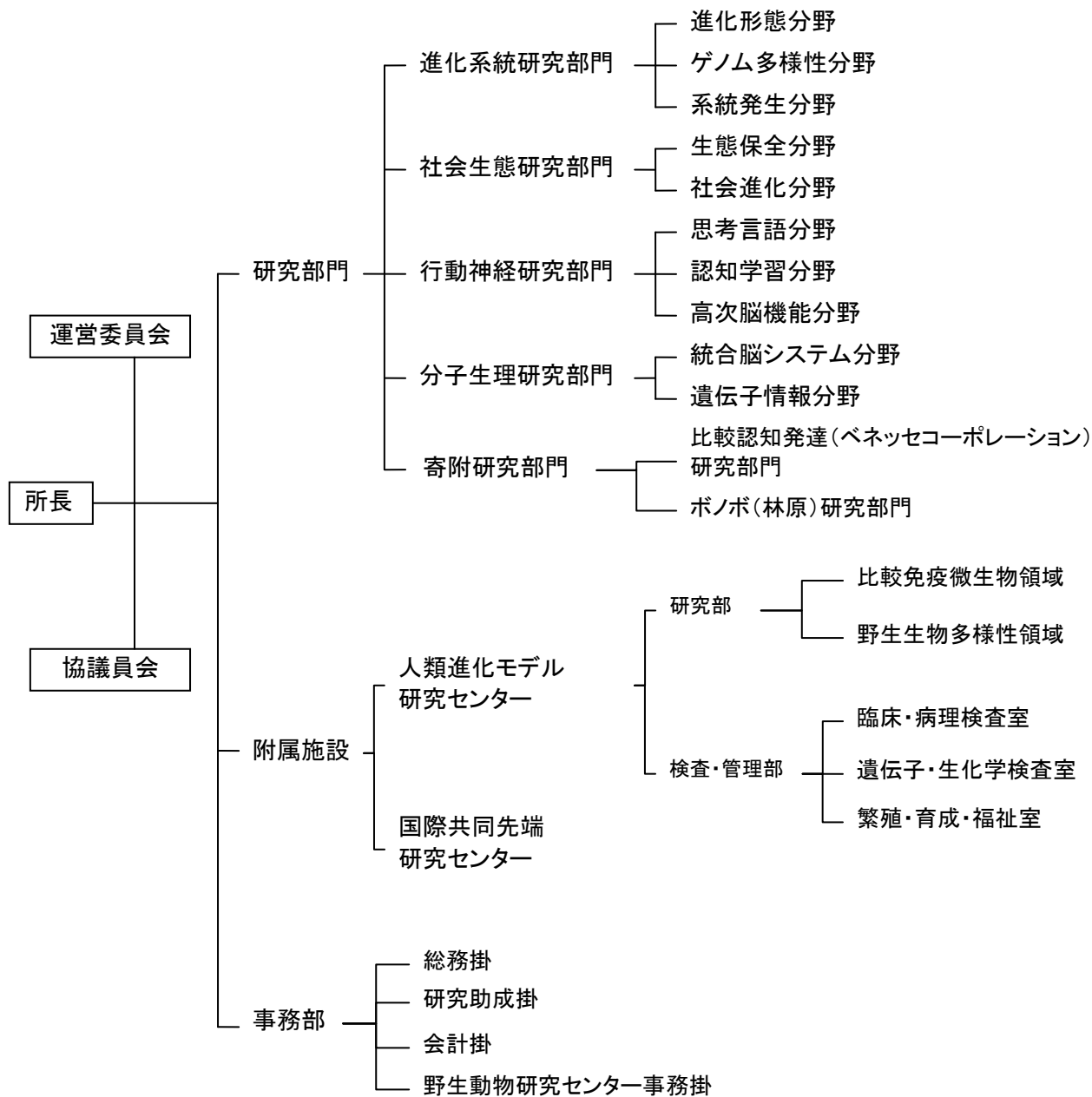
平成23年度当初からは、特別経費（従来の特別教育研究経費から名称変更）として、「人間の進化の霊長類的基盤に関する国際共同先端研究の戦略的展開」が始まる。RRS事業の後継としてそれを補完するとともに、心の先端研究の中核事業という性格をもっている。平成29年度までの7年間の事業である。日本の霊長類学を発展させ、国際的連携の拠点となって、人間の進化の霊長類的起源の解明に努めたい。

以上、平成22年度の研究所の活動概要をここに説明することで、研究者コミュニティならびに一般の皆様のご理解とご支援をお願いするしだいである。

（文責：松沢哲郎）

2. 組織

(1) 組織の概要 (2011年3月31日現在)



所長	松 沢 哲 郎	
運営委員(順不同)		
1号委員	平 井 啓 久	(京都大学霊長類研究所 教授)
	渡 邊 邦 夫	(京都大学霊長類研究所 教授)
2号委員	山 極 壽 一	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	松 林 公 蔵	(京都大学東南アジア研究所 教授)
	阿 形 清 和	(京都大学大学院理学研究科 教授)
3号委員	諏 訪 元	(東京大学総合研究博物館 教授)
	長谷川 壽一	(東京大学大学院総合文化研究科 教授)
	高畑 由起夫	(関西学院大学総合政策学部 教授)
	中 道 正 之	(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
	伊 佐 正	(生理学研究所 教授)
	入 來 篤 史	(理化学研究所 チームリーダー)
	石 田 貴 文	(東京大学大学院理学研究科 准教授)
事務長	八 木 定 行	

職員の内訳

教授	准教授	助教	事務職員	技術職員	小計	非常勤(時間)	合計
14	12	18	9	10	63	96	159

大学院生・研究者等の内訳

博士課程	修士課程	特別研究学生	外国人共同研究者	特別研究員(PD)	合計
16	10	3	5	2	36

(2) 所員一覧 (2010 年度)

進化形態分野

濱田 穰	教授
平崎 鋭矢	准教授
毛利 俊雄	助教
國松 豊	助教
水谷 典子	事務補佐員
加賀谷 美幸	研究員 (研究機関)

ゲノム多様性分野

古賀 章彦	教授
川本 芳	准教授
田中 洋之	助教
澤村 育栄	事務補佐員
市野 進一郎	教務補佐員
樋口 翔子	技術補佐員
川本 咲江	技能補佐員

系統発生分野

高井 正成	教授
西村 剛	准教授
江木 直子	助教
服部 美里	事務補佐員
荻野 慎太郎	教務補佐員
伊藤 毅	大学院生
西岡 佑一郎	大学院生

生態保全分野

渡邊 邦夫	教授
半谷 吾郎	准教授
橋本 千絵	助教
松田 一希	研究員 (研究機関)
大井 由里	技術補佐員
毛利 恵子	技術補佐員
松原 幹	教務補佐員
郷 もえ	教務補佐員
MACINTOSH, Andrew J J	教務補佐員
伊左治 美奈	教務補佐員
Zhang, Peng	外国人共同研究者
RIZALDI	外国人共同研究者
SUEUR, Cedric	外国人共同研究者
澤田 晶子	大学院生
大谷 洋介	大学院生
松岡 絵里子	大学院生

社会進化分野

古市 剛史	教授
HUFFMAN, Michael Alan	准教授
辻 大和	助教
広瀬 しのぶ	事務補佐員

柳井 由香	技術補佐員
青木 美香	技術補佐員
坂巻 哲也	研究員 (産官学連携)
竹元 博幸	研究員 (産官学連携)
風張 喜子	研究員 (産官学連携)
柳 興鎮	研究生

思考言語分野

松沢 哲郎	教授
友永 雅己	准教授
林 美里	助教
打越 万喜子	研究員 (NBRP)
大平 知美	研究員 (NBRP)
服部 裕子	学振特別研究員
酒井 道子	事務補佐員
野上 悦子	教務補佐員
熊崎 清則	教務補佐員
佐藤 義明	教務補佐員
高島 友子	技術補佐員
江口 聖子	技術補佐員
國本 幸子	技術補佐員
DAHL, Christoph David	外国人共同研究者
KRET, Mariska	外国人共同研究者
小倉 匡俊	大学院生
狩野 文浩	大学院生
兼子 峰明	大学院生
MARTIN, Christopher	大学院生
山梨 裕美	大学院生
廣澤 麻里	大学院生
村松 明穂	大学院生
兪 リラ	大学院生

認知学習分野

正高 信男	教授
松井 智子	准教授
香田 啓貴	助教
早川 祥子	研究員 (グローバルCOE)
村井 勅裕	研究員 (グローバルCOE)
新谷 さとみ	事務補佐員
石田 恵子	技術補佐員
加藤 朱美	技術補佐員
BOUCHET, Helene	外国人共同研究者
平石 博敏	大学院生
福島 美和	大学院生
澤田 玲子	大学院生
伊藤 祐康	大学院生
小川 詩乃	大学院生
清長 豊	大学院生
磯村 朋子	大学院生

佐藤 杏奈	大学院生
三浦 優生	大学院生

高次脳機能分野

中村 克樹	教授
宮地 重弘	准教授
泉 明宏	特定准教授 (産官学連携)
脇田 真清	助教
倉岡 康治	特定助教 (新学術領域研究)
山口 智恵子	研究員 (産官学連携)
竹本 篤史	研究員 (産官学連携)
木場 礼子	学振特別研究員
藤田 恵子	事務補佐員
一木 沙織	技術補佐員
三輪 美樹	技術補佐員
鈴木 冬華	技術補佐員
石川 直樹	大学院生
高橋 敬治	大学院生
鴻池 菜保	大学院生
禰占 雅史	大学院生
菊池 瑛理佳	特別研究学生

統合脳システム分野

高田 昌彦	教授
大石 高生	准教授
松本 正幸	助教
井上 謙一	特定助教 (産官学連携)
笠原 洋紀	研究員 (産官学連携)
平田 快洋	研究員 (産官学連携)
松井 亮介	研究員 (産官学連携)
二宮 太平	研究員 (科学研究)
梅村 真理子	事務補佐員
南雲 樹	技術補佐員
佐藤 阿佐子	技術補佐員
檜垣 小百合	技術補佐員
高原 大輔	特別研究学生

遺伝子情報分野

平井 啓久	教授
今井 啓雄	准教授
郷 康広	助教
宮田 正代	事務補佐員
西脇 弘樹	教務補佐員
伯川 美穂	技術補佐員
平井 百合子	技能補佐員
鈴木 南美	大学院生
早川 卓志	大学院生
田中 美希子	大学院生

比較認知発達 (パネッセコーポレーション) 研究部門

伊村 知子	特定助教 (寄附研究部門)
奥村 由香利	事務補佐員
柴崎 全弘	技術補佐員
道見 里美	技術補佐員
村井 倫子	技術補佐員

ボノボ (林原) 研究部門

平田 聡	特定助教 (産官学連携)
山本 真也	特定准教授 (寄附研究部門)

人類進化モデル研究センター

明里 宏文	教授
岡本 宗裕	教授
鈴木 樹理	准教授
宮部 貴子	助教
早川 敏之	助教
吉田 友教	特定助教 (産官学連携)
阿部 政光	技術職員
釜中 慶朗	技術職員
前田 典彦	技術職員
渡邊 朗野	技術職員
森本 真弓	技術職員
兼子 明久	技術職員
渡邊 祥平	技術職員
橋本 直子	技術職員
菅原 亨	研究員 (研究機関)
松井 淳	研究員 (研究機関)
紀藤 咲子	事務補佐員
小林 陽子	事務補佐員
熊谷 かつ江	教務補佐員
齊藤 波子	教務補佐員
岩崎 優紀	技術補佐員
石田 恵津子	技能補佐員
伊藤 和子	技能補佐員
江口 聖子	技能補佐員
大竹 公子	技能補佐員
尾鷲 享子	技能補佐員
兼松 璃々子	技能補佐員
佐々木 順子	技能補佐員
朱宮 幸子	技能補佐員
高瀬 こがみ	技能補佐員
谷 和女	技能補佐員
津川 則子	技能補佐員
浜田 洋子	技能補佐員
福原 加奈絵	技能補佐員
山田 宜世子	技能補佐員
横江 実穂子	技能補佐員
吉田 美千子	技能補佐員
阿部 恵	研究支援推進員
猪飼 良子	研究支援推進員

近藤 ひろ子	研究支援推進員
中川 千枝美	研究支援推進員
葉栗 和枝	研究支援推進員
古橋 保志	研究支援推進員
堀内 ゆかり	研究支援推進員
齊藤 暁	特別研究学生

小野 範子	事務補佐員
袴田 好乃	事務補佐員
橋本 恵美	労務補佐員
畑 美千代	労務補佐員
日比野 恵美子	労務補佐員
敷島 美香	労務補佐員

国際共同先端研究センター

BERCOVITCH, Fred B	特定教授 (G30)
HILL, David A	客員教授
足立 幾磨	特定助教 (G30)
南雲 純治	再雇用職員
早川 清治	再雇用職員
宿輪 マミ	特定職員

情報検索室

福富 憲司	情報管理担当
-------	--------

白眉プロジェクト

佐藤 弥	特定准教授 (白眉)
岩下 渚	事務補佐員

事務部

八木 定行	事務長
-------	-----

総務掛

小野 一代	掛長
田中 雄三	事務職員
原田 陽介	事務職員
大倉 貴子	事務補佐員
大藪 陽子	事務補佐員
松澤 美津子	事務補佐員
後藤 知子	事務補佐員

研究助成掛

新野 正人	掛長
上川 憲史	主任
岩村 智	事務職員
石田 千佳	事務補佐員
大堀 美佳	事務補佐員
小川 幸枝	事務補佐員
原田 重代	事務補佐員
三輪 恭子	事務補佐員
江口 美香	事務補佐員
高井 一恵	事務職員
池田 早苗	事務補佐員
斎藤 千代子	事務補佐員
内田 ひろみ	労務補佐員
柴田 敦子	労務補佐員

会計掛

川俣 昭	掛長
菅野 隆道	事務職員

(3) 大学院生

氏名	学年	正指導教員 副指導教員
平石 博敏	D3	正高 信男 脇田 真清
石川 直樹	D3	中村 克樹 大石 高生
檜垣 小百合 (H22. 7. 14 認定退学)	D3	大石 高生 高井 正成
田中 美希子 (H22. 9. 30 認定退学)	D3	平井 啓久 川本 芳
福島 美和	D3	正高 信男 脇田 真清
三浦 優生 (H22. 5. 31 認定退学)	D3	正高 信男 友永 雅己
松岡 絵里子 (H22. 9. 30 認定退学)	D3	半谷 吾郎 橋本 千絵
MACINTOSH, Andrew J J (H22. 9. 30 認定退学)	D3	HUFFMAN M. A. 渡邊 邦夫
小倉 匡俊	D3	松沢 哲郎 鈴木 樹理
澤田 玲子	D3	正高 信男 高井 正成
高橋 敬治	D3	中村 克樹 友永 雅己
鴻池 菜保	D3	宮地 重弘 大石 高生
伊藤 毅	D2	高井 正成 毛利 俊雄
澤田 晶子	D2	半谷 吾郎 高井 正成
兼子 峰明	D2	友永 雅己 宮地 重弘
狩野 文浩	D2	友永 雅己 橋本 千絵
MARTIN, Christopher	D2	松沢 哲郎 HUFFMAN M. A.
伊藤 祐康	D2	正高 信男 西村 剛
禰占 雅史	D2	宮地 重弘 大石 高生
西岡 佑一郎	D1	高井 正成 國松 豊
山梨 裕美	D1	松沢 哲郎 鈴木 樹理
大谷 洋介	M2	半谷 吾郎 川本 芳
小川 詩乃	M2	正高 信男 西村 剛

清長 豊	M2	正高 信男 西村 剛
鈴木 南美	M2	今井 啓雄 古賀 章彦
廣澤 麻里	M2	松沢 哲郎 香田 啓貴
磯村 朋子	M1	正高 信男 脇田 真清
佐藤 杏奈	M1	正高 信男 西村 剛
早川 卓志	M1	今井 啓雄 友永 雅己
村松 明穂	M1	松沢 哲郎 香田 啓貴
兪 リラ	M1	友永 雅己 毛利 俊雄

(4) 研究支援推進員

氏名	採用期間
猪飼 良子	2010年4月1日～2011年3月31日
葉栗 和枝	2010年4月1日～2011年3月31日
阿部 恵	2010年4月1日～2011年3月31日
近藤 ひろ子	2010年4月1日～2011年3月31日
堀内 ゆかり	2010年4月1日～2011年3月31日
古橋 保志	2010年4月1日～2011年3月31日
中川 千枝美	2010年4月1日～2011年3月31日

3. 予算概況

予算概要

(金額の単位はすべて千円)

運営費交付金	人件費	476,435
	物件費	199,914
	物件費（特別教育研究経費）	188,676
	施設整備費補助金	0
	計	865,025
外部資金	受託研究費（8件）	128,274
	共同研究費（1件）	2,000
	受託事業費（3件）	31,146
	文部科学省日本学術振興会科学研究費補助金（70件）	212,196
	厚生労働省科学研究費補助金（3件）	15,000
	グローバルCOEプログラム（1件）	24,800
	グローバル30プログラム（1件）	11,600
	ナショナル・バイオリソース・プロジェクト（2件）	54,600
	最先端研究開発戦略的強化費補助金（2件）	506,100
	科学技術総合推進費補助金（1件）	4,000
	研究者海外派遣基金助成金（1件）	25,916
	先端研究助成基金助成金（2件）	11,135
	寄附金（7件）	28,979
	寄附研究部門（2件）	50,000
	間接経費	50,818
	全学共通経費	994
	計	1,157,720
合計	2,022,583	

(1) 2010年度 受託研究費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
受託研究費	大石高生	52,307,693	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独創的霊長類モデルの開発と応用（遺伝子改変霊長類モデルの開発と高次脳機能の解析）
受託研究費	高田昌彦	3,000,000	中枢神経障害後の神経回路再編成と機能回復のメカニズムの解明（サルモデルによる皮質脊髄路の可塑性制御機構の検討）
受託研究費	高田昌彦	5,200,000	ドーパミンによる行動の発達と発現の制御機構（ドーパミンによる行動の発達と組織化のメカニズムのシステムの解析）
受託研究費	高田昌彦	7,693,000	サルにおけるモデル作製及びパーキン遺伝子導入の有効性と安全性の検討
受託研究費	古市剛史	3,007,620	The Bonobo Conservation Project: Working towards gazettement of the Iyondji Community Bonobo Reserve in the Democratic Republic of Congo
受託研究費	正高信男	500,000	発達障害のある児童の支援モデル研究事業
受託研究費	中村克樹	9,000,000	マーモセットの感覚・認知機能計測法の確立

受託研究費	古市剛史	47,565,228	高人口密度地域における孤立した霊長類個体群の持続的保護管理
合 計	8 件	128,273,541	

※金額は、間接経費を除く

(2) 2010 年度 共同研究費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
共同研究費	中村克樹	2,000,000	霊長類を対象とした動作理解の比較研究
合 計	1 件	2,000,000	

※金額は、産官学連携推進費を除く

(3) 2010 年度 受託事業費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
受託事業費	松沢哲郎	16,800,000	人類進化の霊長類的起源の解明に向けた若手研究者育成国際プログラム HOPE
受託事業費	古市剛史	5,000,000	ヒト科類人猿の環境適応機構の比較研究
受託事業費	松沢哲郎	9,346,000	人間の進化の霊長類的起源をさぐる研究のアジア諸国における国際連携
合 計	3 件	31,146,000	

※金額は、一般管理費を除く

(4) 2010 年度 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
特別推進研究	松沢哲郎	67,100,000	認知発達の霊長類的基盤
新学術領域研究	足立幾磨	2,500,000	ヒト以外の霊長類における顔知覚様式の比較発達学的分析
新学術領域研究	中村克樹	10,400,000	他者との相互作用を介した情報獲得メカニズムの解明
基盤研究(S)	高田昌彦	24,000,000	神経路選択的の活動抑制とトレーニングによる大脳ネットワークの構築と機能の解明
基盤研究(A)	正高信男	6,000,000	ヒトとニホンザルにおける認知機能の加齢変化についての実験的比較研究
基盤研究(A)	濱田穰	5,800,000	アジア大陸部におけるマカクの進化地理学：移住と多様化の解明
基盤研究(A)	平井啓久	17,500,000	ゲノム不毛地帯（RCRO）の進化と意義
基盤研究(A)	古市剛史	8,300,000	ヒト科における攻撃性と抑制のメカニズムの進化：Pan 属の集団間・集団内交渉の分析
基盤研究(B)	友永雅己	1,400,000	表象形成の多様性、多重性、階層性 —比較認知発達科学からのアプローチ—
基盤研究(B)	橋本千絵	1,300,000	ヒト科における「妊娠しにくさ」の進化—野生チンパンジーのメスの過剰な性行動の研究
基盤研究(B)	松井智子	2,600,000	自閉症児の音声受容特性に関する基礎研究—会話スキルの向上を目指して

基盤研究(B)	高井正成	3,200,000	東ユーラシアにおける新生代後半の霊長類進化に関する古生物学的研究
基盤研究(B)	平井啓久	3,000,000	テナガザル類の多様性と系統生物地理学
基盤研究(B)	今井啓雄	3,200,000	ゲノム多様性を基盤とした霊長類の種内・種間感覚特性の解明
基盤研究(B)	岡本宗裕	5,100,000	テナア科条虫幼虫感染家畜個体の識別に有用な新しい技術開発とリスクの評価への応用
基盤研究(C)	鈴木樹理	800,000	マカクを用いたガンマヘルペスウイルス関与リンパ腫モデル作出の基礎研究
基盤研究(C)	田中洋之	900,000	飼育下マカク集団の遺伝的多様性の変化と近親交配の影響に関する研究
基盤研究(C)	高井正成	500,000	第四紀のニホンザルの進化に関する古生物学的研究
基盤研究(C)	明里宏文	1,400,000	新規霊長類モデルを用いた急性慢性C型肝炎における自然免疫の意義に関する研究
基盤研究(C)	宮地重弘	1,200,000	巧緻な運動制御の基盤となる運動関連皮質の生後発達の神経解剖・神経生理学的研究
基盤研究(C)	川本芳	1,100,000	ヒマラヤ山地・インド亜大陸・スリランカ島嶼におけるマカクの系統地理と分類
挑戦的萌芽研究	今井啓雄	900,000	低分子と受容体の相互作用を基盤とした霊長類フェロモン受容機構解明の試み
挑戦的萌芽研究	友永雅己	1,600,000	比較認知ゲノム科学の確立に向けて—比較認知科学と比較ゲノム科学のクロストーク—
挑戦的萌芽研究	井上謙一	1,500,000	改変狂犬病ウイルスベクターによる新しい神経回路トレーシング手法の開発
挑戦的萌芽研究	中村克樹	1,500,000	セロトニン欠乏法による霊長類うつ病モデル作出の試み
挑戦的萌芽研究	松井智子	1,600,000	バイリンガル発達障害児の対人コミュニケーション能力に関する基礎研究
研究成果公開促進	松沢哲郎	900,000	人間とは何か—チンパンジー—研究から見えてきたもの
若手研究(A)	半谷吾郎	4,700,000	東南アジア熱帯林での一斉結実に対する大型動物の反応
若手研究(B)	松田一希	1,100,000	霊長類社会の重層構造の解明：テングザルの種内変異
若手研究(B)	西村剛	1,000,000	眼窩の真猿化に関わる顔面内部構造の変化に関する研究
若手研究(B)	村井勲裕	700,000	無人島に移入されたテングザル個体群と野生個体群の保全に関する研究
若手研究(B)	早川敏之	1,000,000	宿主域の厳密な特定によるヒト感染性マラリア原虫の新たな定義の確立
若手研究(B)	足立幾磨	1,100,000	社会的認知能力への比較認知的科学的アプローチ
若手研究(B)	泉明宏	700,000	霊長類の音声交換における時間的規則性の研究
若手研究(B)	佐藤弥	1,600,000	広汎性発達障害における動的表情の表象の障害：心理学・神経科学研究
若手研究(B)	郷康広	1,600,000	ヒトとチンパンジーの比較トランスクリプトーム・メチローム研究
研究活動スタート支援	伊村(白井)知子	960,000	空間認知における「参照枠」の効果：比較認知発達の視点から
研究活動スタート支援	山本真也	1,240,000	チンパンジーとボノボにおける利他性・互惠性・他者理解の検討

研究活動スタート支援	松本正幸	1,260,000	意欲に関連した前頭連合野のニューロン活動を生み出すドーパミン入力役割
研究活動スタート支援	倉岡康治	1,200,000	ヒトを含む霊長類における社会的パートナー選択についての種間比較とその脳神経基盤
特別研究員奨励費	服部裕子	700,000	利他性の進化ー「思いやり」を支える情動メカニズムに着目してー
特別研究員奨励費	小倉匡俊	500,000	霊長類に対する社会環境エンリッチメント手法の比較認知科学的検討
特別研究員奨励費	狩野文浩	700,000	チンパンジーの情動行動に関する比較認知・行動学的研究
特別研究員奨励費	兼子峰明	700,000	チンパンジーにおける「行為する自己」の認識ー自己認識の比較認知科学研究
特別研究員奨励費	澤田玲子	700,000	高機能自閉症児の自他認知の発達とその支援ー脳波計測による療育の評価ー
特別研究員奨励費	伊藤祐康	700,000	読み書きに関する学習困難に対応したeラーニングによる療育とその実証的評価法の構築
特別研究員奨励費	鴻池菜保	398,456	霊長類のリズム制御における神経メカニズムの解明
特別研究員奨励費	山梨裕美	700,000	チンパンジーの行動に基づいた性格評定方法の開発と遺伝的基盤の検討
特別研究員奨励費	澤田晶子	700,000	屋久島におけるキノコの多様性とニホンザルの食嗜好性についての進化生態学的研究
特別研究員奨励費	RIZALDI	500,000	霊長類における攻撃交渉時の行動調整とスマトラ産ほ乳類26種の保全
特別研究員奨励費	ZHANG Peng	900,000	ニホンザルの社会システムの比較研究
特別研究員奨励費	DAHL, Christoph D	600,000	チンパンジーにおける顔認識およびコミュニケーション信号の処理の解明に向けて
特別研究員奨励費 (欧米短期)	BOUCHET, Helene	810,000	野生ニホンザルにおける発情声に関する比較認知科学研究
特別研究員奨励費 (欧米短期)	SUEUR, Cedric	972,000	ニホンザルにおける集団としての意思決定機構
特別研究員奨励費 (欧米短期)	KRET, Mariska Esther	486,000	情動表出と認知の多様性に関する比較認知科学研究
研究分担(基盤S)	橋本千絵	300,000	資源利用と闘争回避に関する進化人類学的研究
研究分担(基盤A)	國松豊	350,000	大量に発見したアフリカ中新世類人猿化石の分析とヒト・類人猿共通祖先モデルの構築
研究分担(基盤A)	鈴木樹理	1,500,000	長寿と適応のホミニゼーション
研究分担(基盤A)	橋本千絵	300,000	アフリカ産オナガザル科霊長類の生存戦略と形態の関連
研究分担(基盤A)	辻大和	120,000	アフリカ産オナガザル科霊長類の生存戦略と形態の関連
研究分担(基盤A)	岡本宗裕	1,000,000	世界におけるエキノコックス、テニア条虫の種分化、分子共進化研究
研究分担(基盤A)	今井啓雄	700,000	霊長類の自然集団に注目した感覚関連遺伝子の多様性の探索と適応進化の検証
研究分担(基盤A)	川本芳	600,000	熱帯高地環境における家畜化・牧畜成立過程に関する学際的研究ーアンドレスを中心に
研究分担(基盤B)	松井智子	200,000	認知と言語コミュニケーションの相互関連性に関する社会心理学的研究
研究分担(基盤B)	平崎鋭矢	200,000	ボノボを中心とするヒト上科霊長類の筋骨格構造から読み解く環境

			適応
研究分担(基盤B)	江木直子	200,000	ボノボを中心とするヒト上科霊長類の筋骨格構造から読み解く環境適応
研究分担(基盤B)	川本芳	200,000	キツネザル類の生活史の進化に関する社会生態学的・遺伝学的研究
研究分担(基盤B)	香田啓貴	2,600,000	ヒトとサルにおける行動伝染と模倣の起源に関する実験的研究
研究分担(基盤B)	早川敏之	200,000	パプアニューギニアにおけるマラリア薬剤耐性ダイナミズムの集団遺伝学的解明
研究分担(挑戦的萌芽)	岡本宗裕	200,000	多包虫症に関する非開腹的治療法への挑戦と評価法の開発
合 計	70 件	212,196,456	

※金額は、間接経費を除く

(5) 2010年度 厚生労働省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
肝炎・一般	明里宏文 (分担)	12,000,000	肝炎ウイルスワクチン実用化のための基礎的研究
難治・一般	高田昌彦 (分担)	1,500,000	アイカルディ-ゴーティエ症候群等のピオプテリン代謝異常を伴う疾患の診断方法確立および治療法開発のための横断的研究
政策創薬・一般	明里宏文 (分担)	1,500,000	新規な秩序による抗H I V薬剤の開発研究
合 計	3 件	15,000,000	

※直接経費のみ

(6) 2010年度 研究拠点形成費等補助金《グローバル COE プログラム》内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
グローバル COE プログラム	正高信男	24,800,000	生物多様性と進化研究のための拠点形成
合 計	1 件	24,800,000	

※金額は、間接経費を除く

(7) 2010年度 国際化拠点整備事業費補助金《グローバル 30 プログラム》内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	コ ー ス 名
グローバル 30 プログラム	松沢哲郎	11,600,000	国際霊長類学・野生動物コース
合 計	1 件	11,600,000	

※直接経費のみ

(8) 2010年度 (平成 22 年度)

研究開発施設共用等促進費補助金《ナショナル・バイオリソース・プロジェクト》 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
NBR	平井啓久	45,000,000	大型飼育施設でのニホンザルの繁殖・育成事業
GAIN	松沢哲郎	9,600,000	大型類人猿の情報整備とネットワークづくり
合 計	2 件	54,600,000	

※直接経費のみ

(9) 2010年度 最先端研究開発戦略的強化費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
最先端研究基盤事業	松沢哲郎	500,000,000	心の先端研究のための連携拠点 (WISH)構築
頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム	平井啓久	6,100,000	人間らしさの霊長類的起源をさぐる戦略的国際共同先端研究
合計	2件	506,100,000	

※直接経費のみ

(10) 2010年度 科学技術総合推進費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
国際共同研究の推進	岡本宗裕	4,000,000	難治性寄生虫病に関する遺伝子診断法の開発
合計	1件	4,000,000	

※金額は、間接経費を除く

(11) 2010年度 研究者海外派遣基金助成金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
組織的な若手研究者等海外派遣プログラム	松沢哲郎	25,916,000	人間の本性の進化的起源に関する先端研究
合計	1件	25,916,000	

※金額は、一般管理費を除く

(12) 2010年度 先端研究助成基金助成金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
最先端・次世代研究開発支援プログラム	佐藤弥	1,000,000	広汎性発達障害における対人相互作用障害の心理神経基盤の統合的解明
最先端・次世代研究開発支援プログラム	松本正幸	10,135,000	意欲を生み出す神経メカニズムの解明：前頭前野への中脳ドーパミン入力の役割
合計	2件	11,135,000	

※金額は、間接経費を除く

(13) 2010年度 寄附金 内訳一覧

寄附金名称等	研究代表者	金額	寄附の目的
財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団 学術研究助成 (地学)	江木直子	553,850	絶滅肉食哺乳類ヒエノドン属に見られる奇妙な頭骨についての機能形成学的研究に対する研究助成
財団法人武田科学振興財団 ライフサイエンス研究奨励	松本正幸	2,850,000	意欲に関連した前頭連合野のニューロン活動を生み出す神経メカニズムの解明に対する研究助成
財団法人京都大学教育研究振興財団	松沢哲郎	2,195,000	京都大学附置研究所・センターシンポジウムの開催
財団法人京都大学教育研究振興財団	松沢哲郎	1,500,000	シンポジウム開催助成
財団法人武田科学振興財団 特定研究助成	高田昌彦	19,000,000	大脳皮質－大脳基底核連関の異常としての注意欠陥・多動性障害の病態生理機構の解明
財団法人上原記念生命科学財団 財団法人 住友財団	松本正幸	1,900,000	意欲を生み出す前頭前野の神経メカニズムの解明
株式会社 読売新聞大阪本社	松沢哲郎	980,000	京都大学附置研究所・センターシンポジウムの開催のため
合計	7件	28,978,850	

※寄附金額は、全学共通経費(2%)および部局中央管理費(3%)を控除した金額

(14) 2010年度 寄付研究部門寄附金 内訳一覧

寄附者	金額	寄附研究部門名称
株式会社ベネッセコーポレーション	30,000,000	比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門
株式会社林原	20,000,000	ボノボ(林原)研究部門
合計 2件	50,000,000	

4. 図書

霊長類学の研究成果を網羅する方針で図書を収集しています。特に霊長類学関連論文の別刷は 85,000 点に達し、『霊長類学別刷コレクション』として閲覧に供しています。書籍については全所員からの推薦を受け付け、選定の参考にしています。

(1) 蔵書数

2011 年 3 月末現在、本研究所図書室に所蔵されている資料は、以下の通りです。

和書：7,575 冊（製本雑誌も含む）

洋書：17,523 冊（製本雑誌も含む）

和雑誌・中国雑誌：143 誌

洋雑誌：371 誌

紀要類：645 誌

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）：85,000 点

(2) 資料の所蔵検索

図書室で所蔵している図書・雑誌はすべて【京都大学蔵書検索 KULINE】で検索できます。

【京都大学蔵書検索 KULINE】にアクセスし、[詳細検索画面] - [所蔵館] の欄で [(82)霊長研] を選択すると、霊長類研究所の蔵書のみヒットします。

詳しくは京都大学図書館機構のホームページをご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）は【霊長類学文献索引データベース】で検索できます。

霊長類研究所ホームページの topics【霊長類学文献索引データベース】をご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/library/books.cgi>

(3) 霊長類研究所図書室利用規程

I. 開室時間と休室

1. 開室時間

平日：9時から17時まで。

2. 休室

土曜日、日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。

その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閲覧

1. 閲覧者の資格

- 1) 本研究所の所員。
- 2) 本研究所の共同利用研究員。
- 3) 1), 2) 以外の、京都大学に所属する者で、所属部局の図書施設もしくは附属図書館の紹介のある者。
- 4) その他一般利用者。

2. 閲覧

- 1) 閲覧は所定の場所で行わなければならない。
- 2) 次の各号に掲げる場合においては閲覧を制限することができる。
 - (1) 当該資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号。以下「情報公開法」という。）第 5 条第 1 号、第 2 号及び第 4 号に掲げる情報が記録されていると認められる場合における当該情報が記録されている部分。
 - (2) 当該資料の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は情報公開法第 5 条第 2 号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合における当該期間が経過するまでの間。
 - (3) 当該資料の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じおそれがある場合又は当該資料が現に使用されている場合。

III. 貸出及び返却

1. II の 1 の 1) の該当者及び、2) のうち予め利用者カードを提出した者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持ち出すことはできない。

1) 借用資料の種類と借用方法

a. 単行本

- (i) 単行本は 1 か月間借用できる。
- (ii) 借用時には、ブックカード及び代本板用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本板用紙は代本板の背に挿入して、書架上の本のあった位置に置く。

b. 製本雑誌

- (i) 製本雑誌は 3 日間借用できる。
- (ii) 借用方法は単行本に準じる。

c. 未製本雑誌

- (i) 未製本の雑誌は 15 時から翌朝 10 時までの間に限り借用できる。
- (ii) 借用時には貸出カードに必要事項を記入

する。

d. 別刷

(i) 別刷は開室時間中に図書室内でのみ利用できる。

(ii) 利用後は、返却台の箱に返却する。

e. 他機関からの借用資料

(i) 他機関からの借用資料は、開室時間中の図書室内での利用に限る。

(ii) 利用後は図書係員に返却する。

- 2) 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。
 - 3) 借用中の資料を転貸してはならない。
 - 4) 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、他を優先する。
 - 5) 借用後の図書は返却台に返却する。
2. II の 1 の 3) の該当者は、所属部局の図書施設もしくは附属図書館を通じて借用を依頼することができる。
- 1) 借用資料は単行本のみで、所属部局図書施設内もしくは附属図書館内での利用に限る。
 - 2) 借用期限は2週間とするが、本研究所員からの要請があった場合には、借用期限内であっても、速やかに返却することとする。

IV. 総点検及び長期貸出

1. 定期的に図書の総点検を行う。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、図書室を休室とすることがある。
3. 図書委員会により研究室等への備え付けが認められた時は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は1年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行う。

V. 個人情報漏えい防止のために必要な措置

1. 図書室は、図書室資料に個人情報（生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいう。）が記録されている場合には、当該個人情報の漏えいの防止のために次の各号に掲げる措置を講じるものとする。
 - 1) 書庫の施錠その他の物理的な接触の制限
 - 2) 図書室資料に記録されている個人情報に対する不正アクセス（不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成11年法律第128号）第3

条第2項に規定する不正アクセスをいう。）を防止するために必要な措置

3) 図書室の職員に対する教育・研修の実施

4) その他当該個人情報の漏えいの防止のために必要な措置

VI. その他

1. 図書室資料の目録及びこの図書室利用規程については常時図書室に備え付ける。
2. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
3. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。
4. 図書室内(書庫を含む)は禁煙とする。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

5. サル類飼育頭数・動態

2010年度（平成22年度末）飼育頭数

種名	頭数
コモンマーモセット	110
ワタボウシタマリン	21
ヨザル	15
フサオマキザル	9
ケナガクモザル	1
ニホンザル	376
ニホンザル(NBR)*	356
アカゲザル	212
タイワンザル	4

種名	頭数
ボンネットザル	7
カニクイザル	27
マントヒヒ	3
アジルテナガザル	3
チンパンジー	14
合計	1158

*NBR（「ニホンザル」バイオリソースプロジェクト）の預託を受け飼育しているもの

2010年度（平成22年度）サル類動態表

区分 種名	増加			減少（死亡など）										増減		
	出生	導入	小計	実験殺	事故死	外傷死	呼吸器疾患	消化器疾患	感染症	泌尿器	衰弱	その他*	剖検不能		所外供給	小計
コモンマーモセット	53		53	7		1				1		3	10		22	31
ニホンザル	53		53	23	1	2	3	5			2	26		4	66	-13
ニホンザル(NBR)	75		75		1	2	2	2				36			43	32
アカゲザル	40		40	17	1	1	1	1			2	7			30	10
タイワンザル				1											1	-1
カニクイザル	1		1	4											4	-3
ワタボウシタマリン	2		2	1			1					2		2	6	-4
ミドリザル				1											1	-1
ボンネットザル				2											2	-2
コマンリスザル				4											4	-4
マントヒヒ				1				1							2	-2
小計	224	0	224	61	3	6	7	9	1	0	7	81	6	181	43	
合計	224			181										43		

*血小板減少症関連の死亡・安楽死を含む

6. 資料

霊長類研究所が所蔵する資料は、骨格標本、液浸標本、化石模型、遺伝子試料、CT 画像などからなり、外部の研究者にも基本的にすべて公開されている。資試料の多くはデータベース化されており、資料委員会の許可にもとづいて利用希望者に提供され、研究遂行上の必要に応じて貸し出しもおこなっている。

(1) 骨格標本(表 1, 2)

資料委員会のデータベース(PRISK)に登録された霊長類骨格標本は 8,200 点を超える(表 1)。大部分はマカク類を中心とした旧世界ザルの標本である。特にニホンザルの標本は所内飼育・野生由来個体を合わせて 3,000 点以上を数え、世界的に見ても稀なコレクションである。その他に、新世界ザル標本は約 1,450 点、類人猿および原猿類(+ツパイ)はそれぞれ数十点ずつを所蔵する。

霊長類以外にも、データベース (PRISK-Z)には約 1,700 点近い獣骨標本が登録されている(表 2)。日本産哺乳類が多く、日本産野生哺乳類が減っている現在、これらは貴重な資料である。日本産タヌキやテン、ツキノワグマの標本数は世界有数である。また、コレクションには海外調査地からの収集物や動物園からの寄贈標本など、国内では入手・観察の難しいものも含まれる。

骨格標本は、現在は研究所新棟 4 階と本棟地下の骨格資料室において移動式標本架などにならべて保管されている。標本は種ごとに分類され、種内では標本番号にしたがって配列されている。利用希望者は、資料室のコンピューター上に置かれた標本データベースから標本番号、属名、種名、登録日、性別、体重、座高、前胴長などの情報を検索することができる。

(2) 液浸標本(表 1, 3)

本棟地下及び栗栖地区の液浸資料室に各種霊長類のホルマリンもしくはアルコールで固定された液浸標本が約 1,000 点保管されている(表 2)。霊長類以外の液浸標本も 200 点ほどある(表 3)。筋骨格系の割合が高いが、脳や臓器の標本も含む。平成 21 年度から液浸標本のデータベース化を行い、PRISK および PRISK-Z での検索が可能になった。このように大規模な液浸標本資料は稀有であり、世界的に見てもなかなか利用機会が得られない貴重なコレクションである。

(3) 化石模型

人類および中新世ホミノイドを中心に 495 点の化石

模型がデータベース(PRICAST)に登録されている。

(4) 霊長類分子生物学用試料(表 4)

平成 21 年度より大型類人猿ネットワーク (GAIN) の情報を通じて譲渡を受けた類人猿臓器試料や、研究所内で多重利用の対象となった試料の一部(旧世界ザル、新世界ザル等)を資料委員会が保管管理している。これらは RNAlater 処理試料や凍結試料が主である。譲渡契約等の関係から、原則として利用は所員と共同利用研究員に限定しているため、利用希望者は関係所員に問い合わせをいただきたい。現在データベース化を進めている。

(5) CT 画像

所蔵標本の CT 画像データのデータベース化を進め、Web 上の Digital Morphology Museum (<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/dmm/WebGallery/Index.html>)を介して、画像データを国内外の多くの研究者に提供した。

(6) その他

他に、被毛標本数十点や透明標本数点、冷凍筋骨格試料数点を保有する。

霊長類研究所資料委員会は国内外の多くの研究者がこれらの資試料を利用して研究を進めることを希望しており、利用希望者の要請にできるだけ応えたいと考えている。そのため、毎年継続して、新しい標本資料の作製、資試料の受け入れを積極的に行い、資試料の充実に努めている。また、上記のように研究所所蔵資試料のデータベース化など利用環境の整備をおこなっている。

骨格・液浸標本の利用許可については、非破壊的な使用目的の場合は簡便な手続きで利用できる。標本の破壊が必要だったり破損の恐れのある研究利用もできるが、その際は資料委員会への十分な説明とそれに基づく審査が必要である。また、貴重な試料を動物園等の学外飼育施設から譲渡していただいているので、利用規約や契約等を遵守して協力していただきたい。

備考：資料委員会では、資試料を一層充実させたいと考えています。野外調査などの際に標本資料の採集にご協力いただけるとありがたいです。標本管理者の移籍・退職などによって管理困難となった標本の取り扱いについても相談を受けます。他機関所蔵の資料との交換も受け入れています。上記のような場合は資料委員会までご連絡ください。(平成 23 年度連絡先：平崎鋭矢 [siryou \[at\] pri.kyoto-u.ac.jp](mailto:siryou[at]pri.kyoto-u.ac.jp))

(文責：江木直子)

2010 年度（平成 22 年度）所蔵資試料

表 1 霊長類骨格および液浸標本

和名	学名	骨格	液浸
ホミノイド	Hominoidea	96	98
テナガザル属	<i>Hylobates</i> spp.	60	48
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	29	44
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	6	3
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	1	3
旧世界ザル	Cercopithecoidea	6607	586
マカク属	<i>Macaca</i> spp.	4895	439
ラングール属	<i>Presbytis</i> spp.	176	25
コロブス属	<i>Colobus</i> spp.	365	9
コバナテングザル属	<i>Simias concolor</i>	132	1
グエノン属	<i>Cercopithecus</i> spp.	572	66
パタス属	<i>Erythrocebus patas</i>	18	7
マンガベイ属	<i>Cercocebus</i> spp.	16	4
ゲラダヒヒ属	<i>Theropithecus gelada</i>	1	4
ヒヒ属	<i>Papio</i> spp.	414	27
マンドリル属	<i>Mandrillus</i> spp.	18	3
コロブス亜科属不明	Colobinae indet.	-	1
新世界ザル	Ceboidea	1452	227
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	989	63
ヨザル属	<i>Aotus trivirgatus</i>	59	21
ティティ属	<i>Callicebus</i> spp.	49	3
ホエザル属	<i>Alouatta</i> spp.	51	4
クモザル属	<i>Ateles</i> spp.	12	12
ウーリークモザル属	<i>Brachyteles</i> spp.	3	-
ウーリーモンキー属	<i>Lagothrix</i> spp.	17	2
オマキザル属	<i>Cebus</i> spp.	92	30
サキ属	<i>Pithecia</i> spp.	14	2
ウアカリ属	<i>Cacajao calvus</i>	1	-
ゲルディモンキー属	<i>Callimico goeldi</i>	1	-
ピグミーマーモセット属	<i>Cebuella pygmaeus</i>	7	8
マーモセット属	<i>Callithrix</i> spp.	62	19
タマリン属	<i>Saguinus</i> spp.	89	62
ライオンタマリン属	<i>Leontopithecus rosalia</i>	6	-
マーモセット科属不明	Callitrichidae indet.	-	1
原猿類およびツパイ類	Prosimii + Scandentia	78	101
ツパイ属	<i>Tupaia</i> spp.	45	12
オオツパイ属	<i>Lyonogale</i> spp.	1	-
キツネザル属	<i>Lemur</i> spp.	9	11
エリマキキツネザル属	<i>Varecia</i> spp.	4	3
ネズミキツネザル属	<i>Microcebus</i> spp.	-	1
スローロリス属	<i>Nycticebus</i> spp.	9	21
ポットー属	<i>Perodicticus</i> spp.	1	1
ロリス属	<i>Loris</i> spp.	-	2
ガラゴ属	<i>Galago</i> spp.	8	41
メガネザル属	<i>Tarsius</i> spp.	1	1
キツネザル上科属不明	Lemuroidea indet.	-	5
曲鼻猿類属不明	Strepsirrhini indet.	-	3
種不明	unidentifiable	-	9
総計	Total	8233	1021

表 2 霊長類以外の骨格標本

和名[目・科]	Taxa [order/genus]	標本数
食肉目	Carnivora	992
レッサーパンダ科(1) <i>Ailurus</i> ; イヌ科(536) <i>Canis</i> , <i>Nyctereutes</i> , <i>Vulpes</i> ; イタチ科(229) <i>Martes</i> , <i>Meles</i> , <i>Mustela</i> , <i>Pteronura</i> ; アシカ科(16) <i>Callorhinus</i> , <i>Eumetopias</i> , <i>Zalophus</i> ; アライグマ科(6) <i>Procyon</i> ; クマ科(137) <i>Helarctos</i> , <i>Melursus</i> , <i>Selenarctos</i> , <i>Ursus</i> ; ネコ科(40) <i>Felis</i> , <i>Neofelis</i> , <i>Panthera</i> ; マングース科(4) <i>Crossarchus</i> , <i>Mungos</i> , <i>Suricata</i> ; ジャコウネコ科(23) <i>Artictis</i> , <i>Paguma</i> , <i>Viverricula</i>		
奇蹄目	Perissodactyla	10
ウマ科(8) <i>Equus</i> ; バク科(2) <i>Tapirus</i>		
偶蹄目	Artiodactyla	448
イノシシ科(346) <i>Sus</i> ; ペッカーリ一科(3) <i>Tayassus</i> ; ウシ科(53) <i>Ammotragus</i> , <i>Antilope</i> , <i>Bos</i> , <i>Buvalus</i> , <i>Capra</i> , <i>Capricornis</i> , <i>Cephalophus</i> , <i>Ovis</i> ; シカ科(43) <i>Cervus</i> , <i>Hydropotes</i> , <i>Muntiacus</i> ; 科不明/Family indet. (3)		
鯨目	Cetacea	9
マイルカ科(9) Delphinidae indet.		
トガリネズミ目	Soricomorpha	48
トガリネズミ科(39) <i>Crocidura</i> , <i>Suncus</i> ; モグラ科(9) <i>Euscaptor</i> , <i>Mogera</i> , <i>Urotrichus</i>		
翼手目	Chiroptera	4
オオコウモリ科(1) <i>Pteropus</i> ; キクガシラコウモリ科(1) <i>Rhinolophus</i> ; 科不明/Family indet. (2)		
皮翼目	Dermoptera	2
ヒヨケザル科(2) <i>Cynocephalus</i>		
齧歯目	Rodentia	130
ヤマネ科(1) <i>Glirulus</i> ; リス科(45) <i>Callosciurus</i> , <i>Eutamias</i> , <i>Petaurista</i> , <i>Sciurus</i> , <i>Spermophilus</i> ; ネズミ科(65) <i>Apodemus</i> , <i>Cricetomys</i> , <i>Microtus</i> , <i>Mus</i> , <i>Rattus</i> ; パカ科(2) <i>Agouti</i> ; テンジクネズミ科(3) <i>Cavis</i> , <i>Dolichotis</i> ; オマキヤマアラシ科(1) <i>Coendou</i> ; カピバラ科(1) <i>Hydrochoerus</i> ; ヤマアラシ科(2) <i>Atherurus</i> , <i>Hystrix</i> ; ノートリア科(6) <i>Myocastor</i> ; 科不明/Family indet. (4)		
ウサギ目	Lagomorpha	15
ウサギ科(13) <i>Lepus</i> ; ナキウサギ科(2) <i>Ochotona</i>		
異節目	Xenarthra	2
フタユビナマケモノ科(2) <i>Choloepus</i>		
アフリカトガリネズミ目	Afrosoricida	1
テンレック科(1) <i>Echinops</i>		
岩狸目	Hyracoidea	1
イワダヌキ科(2) <i>Procavia</i>		
長鼻目	Proboscidea	2
ゾウ科(2) <i>Elephas</i> , <i>Loxodonta</i>		
有袋目	Marsupialia	10
オポッサム科(3) <i>Didelphis</i> ; カンガルー科(2) <i>Macropos</i> ; クスクス科(4) <i>Phalanger</i> , <i>Trichosurus</i> ; ウオンバット科(1) <i>Vombatus</i>		
哺乳類・計	Mammalia total	1674
鳥類	Aves	15
Phoenicopteriformes [フラミンゴ類] (3) indet.; Columbiformes [ハト類] (2) <i>Columba</i> ; Falconiformes [タカ類] (2) <i>Butastur</i> , <i>Milvus</i> ; Galliformes [キジ類] (4) <i>Bambusicola</i> , <i>Gallus</i> ; Passeniformes [スズメ類] (4) <i>Zoothera</i> , <i>Passer</i> , <i>Strunus</i>		
爬虫類	Reptilia	6
Cheloniidae [ウミガメ類] (3) <i>Caretta</i> , <i>Chelonia</i> ;		

Alligatoridae [アリゲーター類] (1) indet.;		
Boidae [ボア類] (2) <i>Eunectes</i>		
魚類	Pisces	1
Perciformes [スズキ類] (1) <i>Lateolabrax</i>		
総計	Total	1696

表 3 霊長類以外の液浸資料

和名[目・科]	Taxa [order/genus]	標本数
食肉目	Carnivora	68
レッサーパンダ科(1) <i>Ailurus</i> ; イヌ科(4) <i>Canis, Urocyon</i> ; イタチ科(33) <i>Martes, Mustela</i> ; アシカ科(1) Otariidae indet.; クマ科(10) <i>Selenarctos</i> ; ネコ科(3) <i>Felis</i> ; ジャコウ ネコ科(4) <i>Artictis, Paguma</i> ; 科不明/Family indet.(12)		
偶蹄目	Artiodactyla	1
ウシ科(1) <i>Capricorni</i>		
トガリネズミ目	Soricomorpha	9
トガリネズミ科(7) <i>Sorex, Suncus</i> ; モグラ科(2) <i>Mogera,</i> <i>Urotrichus</i>		
翼手目	Chiroptera	4
オオコウモリ科(4) <i>Roussetus</i>		
齧歯目	Rodentia	108
リス科(1) <i>Sciuridae</i> indet.; ネズミ科(106) <i>Clethrionomys,</i> <i>Rattus</i> ; ノリス科(1) <i>Myocastor</i>		
ウサギ目	Lagomorpha	1
ウサギ科(1) <i>Leporidae</i> indet.		
アフリカトガリネズミ目	Afrosoricida	1
テンレック科(1) <i>Tenrecidae</i> indet.		
有袋目	Marsupialia	4
カンガルー科(1) <i>Macropodidae</i> indet.; フクロモモンガ科(1) <i>Petaurus</i> ; クスクス科(2) <i>Trichosurus</i>		
哺乳類・計	Mammalia total	196
鳥類 Aves (1)	Galliformes - <i>Gallus</i> [ニワトリ]	
爬虫類 Reptilia (1)	Squamata indet. [トカゲ]	
総計	Total	198

表 4 霊長類分子生物学用試料

和名	学名	個体数
ホミノイド	Hominoidea	21
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	13
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	4
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	2
テナガザル属	<i>Hylobates lar</i>	1
フクロテナガザル属	<i>Symphalangus syndactylus</i>	1
旧世界ザル	Cercopithecoidea	8
マカク属	<i>Macaca</i> spp.	6
グエノン属	<i>Cercopithecus</i> spp.	1
ヒヒ属	<i>Papio</i> spp.	1
新世界ザル	Ceboidea	12
マーモセット属	<i>Callithrix</i> spp.	10
タマリン属	<i>Saguinus</i> spp.	1
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	1

7. 人事異動

所属分野等	職名	異動		内容	備考
		氏名	年月日		
思考言語	所長	松沢哲郎	2010/4/1	併任	任期は 2012/3/31 まで
遺伝子情報	副所長	平井啓久	2010/4/1	併任	任期は 2011/3/31 まで
思考言語	国際共同先端研究センター長	松沢哲郎	2010/4/1	併任	任期は 2012/3/31 まで
人類進化モデル研究センター	教授	岡本宗裕	2010/4/1	採用	鳥取大学農学部・准教授より
進化形態	准教授	平崎鋭矢	2010/4/1	採用	大阪大学人間科学研究科・助教より
ボノボ (林原) 研究部門	客員准教授	平田聡	2010/4/1	称号付与	
認知学習	准教授	松井智子	2010/4/1	雇用更新	任期は 2011/3/31 まで
ボノボ (林原) 研究部門	特定助教 (寄附研究部門)	山本真也	2010/4/1	採用	東京大学大学院総合文化研究科・特別研究員より
高次脳機能	特定助教 (新学術領域研究)	倉岡康治	2010/4/1	採用	高次脳機能分野・特別研究員より
遺伝子情報	助教	郷康広	2010/4/1	採用	理学研究科・特定助教(グローバルCOE)より
国際共同先端研究センター	特定助教 (G30)	足立幾磨	2010/4/1	採用	思考言語分野・特定助教 (特別推進研究) より
国際共同先端研究センター	再雇用職員	早川清治	2010/4/1	再雇用	進化形態分野・技術職員より
国際共同先端研究センター	特定教授 (G30)	BERCOVITCH, Fred B	2010/6/1	採用	San Diego Zoo's Institute for Conservation Research ・ Director/Behavioral Biology Division より
国際共同先端研究センター	客員教授	HILL, David A	2010/7/1	採用	外国人研究員
人類進化モデル研究センター	特定助教 (産官学連携)	吉田友教	2010/8/1	採用	人類進化モデル研究センター・研究員 (厚生科研) より
高次脳機能	特定准教授 (産官学連携)	泉明宏	2010/9/1	採用	国立精神・神経医療研究センター神経研究所モデル動物開発研究部・室長より
認知学習	准教授	松井智子	2010/11/30	辞職	東京学芸大学国際教育センター教授へ
進化形態	助教	國松豊	2011/3/1	昇任	理学研究科・准教授へ

8. 海外渡航

(1) 教職員

所属	氏名	期間	目的国	目的
系統発生	江木直子	2010/4/14～4/19	アメリカ合衆国	第79回アメリカ形質人類学会参加・発表・資料収集
系統発生	西村剛	2010/4/15～4/19	アメリカ合衆国	第79回アメリカ形質人類学会参加・発表・資料収集
系統発生	高井正成	2010/4/15～4/18	大韓民国	化石標本観察
遺伝子情報	今井啓雄	2010/4/21～4/28	アメリカ合衆国	化学物質受容学会(Achems)参加・発表、研究打ち合わせ
事務室	新野正人	2010/4/27～4/29	大韓民国	人類進化の霊長類の起源の解明に関する連携打ち合わせ
思考言語	松沢哲郎	2010/4/27～4/29	大韓民国	人類進化の霊長類の起源の解明に関する連携打ち合わせ
思考言語	友永雅己	2010/4/27～4/29	大韓民国	人類進化の霊長類の起源の解明に関する連携打ち合わせ
社会進化	HUFFMAN, Michael. A	2010/5/4～5/10	台湾	野生霊長類の研究についてのセミナー・研究打ち合わせ及び講義
進化形態	濱田穰	2010/5/13～5/28	ベトナム社会主義共和国・タイ王国	インドシナ半島のマカクの分布と多様性に関する調査
思考言語	松沢哲郎	2010/5/15～5/20	英国	霊長類の認知機能に関する資料収集、編集会議出席・研究打ち合わせ、講演
生態保全	橋本千絵	2010/5/23～8/12	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査及び研究連絡
進化形態	平崎鋭矢	2010/5/25～6/1	タイ王国	野生ベニガオザル・野生カニクイザルのロコモーションについてビデオ撮影による運動学的分析
ボノボ(林原)	山本真也	2010/5/29～9/5	アメリカ合衆国・コンゴ民主共和国	飼育ボノボと野生ボノボを対象とした比較認知科学的研究
高次脳機能	中村克樹	2010/6/5～6/11	スペイン	16th Annual Meeting of the Organaizaiton for Human Brain Mapping に参加・情報収集・研究打ち合わせ
高次脳機能	倉岡康治	2010/6/5～6/12	スペイン	16th Annual Meeting of the Organaizaiton for Human Brain Mapping に参加・情報収集
生態保全	渡邊邦夫	2010/6/10～6/22	インドネシア共和国	スラウェシマカク野外調査
統合脳システム	高田昌彦	2010/6/16～6/26	アメリカ合衆国	第10回国際大脳基底核学会学術集会出席・発表・資料収集、セミナー参加・研究打ち合わせ
系統発生	高井正成	2010/6/16～7/4	ミャンマー連邦・タイ王国	化石標本観察
遺伝子情報	郷康広	2010/6/21～7/11	ドイツ連邦共和国・フランス共和国	共同研究の遂行と国際分子生物進化学会参加・資料収集
認知学習	松井智子	2010/6/21～7/16	英国	自閉症児イントネーション研究に関するデータ収集・分析・情報収集
進化形態	濱田穰	2010/6/22～6/28	タイ王国・ラオス人民民主共和国	霊長類の分布と生息状況調査、研究打ち合わせ
思考言語	友永雅己	2010/6/23～6/30	カナダ	第14回国際意識科学会参加・情報収集、研究打ち合わせ
国際センター	足立幾磨	2010/6/23～6/30	カナダ	第14回国際意識科学会参加・情報収集、研究打ち合わせ
白眉プロジェクト	佐藤弥	2010/6/26～6/30	シンガポール	Neuro Talk2010 参加・発表・情報収集
社会進化	辻大和	2010/6/27～7/8	ウガンダ共和国	オナガザル類の採食生態の調査・研究連絡
思考言語	松沢哲郎	2010/6/29～7/4	マレーシア	国際ワークショップ開催、施設訪問・見学・情報収集、研究打ち合わせ

国際センター	宿輪マミ	2010/6/29～7/4	マレーシア	国際ワークショップ開催、施設訪問・見学・情報収集
社会進化	古市剛史	2010/7/4～7/25	ウガンダ共和国	ボノボの研究と保護に関する連絡会議出席・研究連絡、野外調査
思考言語	松沢哲郎	2010/7/14～7/24	アメリカ合衆国・ザンビア共和国	Biology of Social Cognition 参加・講演・資料収集、ISSBD 21th Biennial International Congress 参加・講演・資料収集
ゲノム多様性	川本芳	2010/7/19～7/25	ブータン王国	霊長類調査・研究打ち合わせ
生態保全	半谷吾郎	2010/7/26～8/4	マレーシア	野外調査及び研究打ち合わせ
思考言語	松沢哲郎	2010/8/6～8/31	コンゴ民主共和国	野生ボノボの生態調査
ボノボ(林原)	平田聡	2010/8/6～8/31	コンゴ民主共和国	野生ボノボの生態調査
進化形態	國松豊	2010/8/7～8/25	ケニア共和国	化石資料の分析・研究打ち合わせ
国際センター	HILL, David A.	2010/8/12～8/31	英国	第15回国際コウモリ研究学会出席・資料収集、研究打ち合わせ
進化形態	濱田穰	2010/8/16～8/31	インドネシア共和国・ベトナム社会主義共和国・ミャンマー連邦・タイ王国	アジア大陸部の霊長類の分布と生息状況調査
センター	明里宏文	2010/8/16～8/21	大韓民国	韓国実験動物学会参加・発表・資料収集
事務室	新野正人	2010/8/16～8/25	タンザニア連合共和国	フィールド調査地実態調査・海外パートナー機関との事務連絡
社会進化	HUFFMAN, Michael. A	2010/8/17～8/29	ベトナム社会主義共和国	ベトナム野生霊長類のサルマラリア感染調査
思考言語	林美里	2010/8/20～8/31	マレーシア	オランウータンの行動調査・研究打ち合わせ
比較認知発達	伊村知子	2010/8/21～8/28	スイス連邦	ヨーロッパ視覚学会参加・発表・資料収集
系統発生	高井正成	2010/8/22～8/28	インドネシア共和国	化石標本観察
系統発生	荻野慎太郎	2010/8/22～8/28	インドネシア共和国	化石標本観察
遺伝子情報	郷康広	2010/9/14～9/19	フランス共和国	ヨーロッパ化学受容体学会参加・発表・情報収集
遺伝子情報	今井啓雄	2010/9/15～9/20	フランス共和国	ヨーロッパ化学受容体学会参加・発表・情報収集
比較認知発達	伊村知子	2010/9/25～9/30	英国	アトキンソン・ブラディック退官記念講演・認知神経科学セミナー参加・資料収集
思考言語	林美里	2010/9/26～10/1	マレーシア	オランウータンの行動調査・研究打ち合わせ
系統発生	江木直子	2010/10/3～10/24	アメリカ合衆国	標本資料調査・国際古脊椎動物学会参加・発表・資料収集
系統発生	高井正成	2010/10/5～10/12	台湾	骨格標本観察、化石産地訪問・見学・化石標本観察
社会進化	HUFFMAN, M.A	2010/10/15～11/5	イタリア共和国・チェコ共和国	研究連絡・セミナー参加・講演
事務室	八木定行	2010/10/15～10/22	ブータン王国	国際ワークショップ参加・施設見学
思考言語	松沢哲郎	2010/10/15～10/22	ブータン王国	国際ワークショップ参加・研究打ち合わせ・施設見学
社会進化	辻大和	2010/10/16～12/18	インドネシア共和国・タイ王国・ベトナム社会主義共和国	東南アジアに生息するマカク類の採食生態についての調査
生態保全	渡邊邦夫	2010/10/16～10/27	インドネシア	スラウェシマカク・ムーアモンキー野外調査
系統発生	西村剛	2010/10/17～10/23	スイス連邦	曲鼻猿頭蓋骨標本のCT撮像・化石旧世界ザル標本のCT分析
高次脳機能	中村克樹	2010/10/18～10/25	ドイツ連邦共和国	マーモセット生理指標の記録に関する技術

				提供、研究打ち合わせ、情報交換
国際センター	BERCOVITCH, Fred B.	2010/10/20～11/7	マレーシア	学生募集活動、国際コースに資するフィールド調査及び研究打ち合わせ
センター	岡本宗裕	2010/10/24～11/4	中華人民共和国	テナア科条虫に関する研究打ち合わせ・情報交換、疫学調査
進化形態	濱田穰	2010/11/11～11/30	タイ王国・カンボジア王国・ベトナム社会主義共和国	アジア大陸部の霊長類の分布と生息状況調査
統合脳システム	高田昌彦	2010/11/12～11/19	アメリカ合衆国	第40回北米神経科学会大会参加・発表・資料収集
統合脳システム	井上謙一	2010/11/12～11/19	アメリカ合衆国	第40回北米神経科学会大会参加・発表・資料収集
遺伝子情報	今井啓雄	2010/11/14～11/18	中華人民共和国	リーフモンキーの観察と試料収集
系統発生	高井正成	2010/11/14～11/25	中華人民共和国	化石発掘調査
国際センター	BERCOVITCH, Fred B.	2010/11/17～12/2	アメリカ合衆国	国際コースの広報活動、研究打ち合わせ・資料収集
ボノボ(林原)	山本真也	2010/11/19～12/1	ブータン王国	地形・植生・教育調査
思考言語	林美里	2010/11/19～12/1	マレーシア	オランウータンの行動調査・研究打ち合わせ
生態保全	橋本千絵	2010/11/28～2/25	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査・研究連絡
国際センター	宿輪マミ	2010/11/26～11/30	大韓民国	留学説明会参加・施設見学
国際センター	足立幾磨	2010/11/26～11/30	大韓民国	留学説明会参加・施設見学
国際センター	HILL, David A.	2010/11/26～11/30	大韓民国	留学説明会参加・施設見学
センター	岡本宗裕	2010/11/30～12/4	タイ王国	2010年熱帯医学合同国際会議のシンポジウム参加・講演・資料収集、研究打ち合わせ
系統発生	高井正成	2010/12/1～12/7	フランス共和国	学位審査・講演
進化形態	國松豊	2010/12/5～2011/2/13	ケニア共和国	発掘調査・発掘資料の整理と分析
統合脳システム	松本正幸	2010/12/5～12/10	アメリカ合衆国	The American College of Neuropsychopharmacology 49th Annual Meeting に参加・発表・資料収集
社会進化	HUFFMAN, Michael. A	2010/12/6～12/25	スリランカ	野生霊長類地域群に関する最新情報とサンプル収集
思考言語	友永雅己	2010/12/10～12/17	マレーシア	野生下および飼育下オランウータンの行動観察
思考言語	松沢哲郎	2010/12/11～1/10	ギニア共和国	野生チンパンジーの生態調査・研究打ち合わせ
ボノボ(林原)	山本真也	2010/12/11～2/11	ギニア共和国	野生チンパンジーの生態調査・研究打ち合わせ
ゲノム多様性	川本芳	2010/12/18～12/30	ネパール連邦民主共和国	家畜と霊長類の遺伝学的調査
社会進化	古市剛史	2010/12/22～1/10	ウガンダ共和国	霊長類の野外調査実習
進化形態	濱田穰	2010/12/25～2011/1/2	タイ王国	タイ東部のブタオザル形態学的調査
国際センター	HILL, David A.	2011/1/7～1/28	ウガンダ共和国	カリンズ森林保護区における異なる植生タイプの動物層の比較研究・調査
社会進化	HUFFMAN, Michael. A	2011/1/10～1/25	南アフリカ共和国	野生ヒヒの行動観察及び研究連絡
系統発生	高井正成	2011/1/15～1/29	インド	化石標本観察及び化石発掘調査
センター	岡本宗裕	2011/1/15～1/22	インドネシア	ヒト及び家畜の疫学調査・テナア科条虫に関する情報交換
社会進化	古市剛史	2011/1/18～1/24	コンゴ民主共和国	ボノボの保護に関するワークショップ参加
事務室	新野正人	2011/1/23～1/30	ブータン王国	海外パートナー機関との連携に関する打ち合わせ・若手研究者派遣予定先実態調査
事務室	川俣昭	2011/1/27～2/1	マレーシア	フィールド調査地実態調査・連携機関との連絡調整

国際センター	BERCOVITCH, Fred B.	2011/1/31～2/9	オーストラリア連邦	国際コースの広報活動、情報収集
系統発生	西村剛	2011/2/2～2/10	ミャンマー連邦	化石発掘調査・化石標本観察・研究打ち合わせ
センター	岡本宗裕	2011/2/4～2/8	タイ王国	研究打ち合わせ・疫学調査
国際センター	HILL, David A.	2011/2/9～2/11	大韓民国	国際コースの広報活動、情報収集
遺伝子情報	平井啓久	2011/2/10～2/20	タイ王国	テナガザルの遺伝試料収集・研究打ち合わせ
ゲノム多様性	古賀章彦	2011/2/10～2/20	タイ王国	テナガザルの遺伝試料収集・研究打ち合わせ
思考言語	林美里	2011/2/10～2/22	マレーシア	オランウータンの行動調査・研究打ち合わせ
事務室	八木定行	2011/2/14～2/18	マレーシア	フィールド調査地実態調査・マレーシア科学大学との MOU 締結式参加
事務室	小野一代	2011/2/14～2/18	マレーシア	フィールド調査地実態調査・マレーシア科学大学との MOU 締結式参加
思考言語	松沢哲郎	2011/2/14～2/18	マレーシア	資料収集・研究打ち合わせ・マレーシア科学大学との MOU 締結式参加
ゲノム多様性	川本芳	2011/2/14～2/23	インド	牧畜等の現地調査
社会進化	HUFFMAN, Michael. A	2011/2/19～3/8	ベトナム社会主義共和国	ヒトと野生サルの共存状況調査及びサルマラリア検査用糞サンプル収集
国際センター	HILL, David A.	2011/2/20～2/28	マレーシア	人類進化の霊長類的起源の解明に関する連携打ち合わせ
国際センター	BERCOVITCH, Fred B.	2011/2/24～3/5	マレーシア	国際コースの広報活動、情報収集
認知学習	正高信男	2011/3/1～3/10	南アフリカ共和国	共同研究打ち合わせ及び資料・情報収集
ゲノム多様性	川本芳	2011/3/7～3/24	ブータン王国	霊長類の生息状況調査および遺伝学研究のための試料収集
遺伝子情報	今井啓雄	2011/3/11～3/18	中華人民共和国	野生サルの観察及び飼料収集・研究打ち合わせ
認知学習	香田啓貴	2011/3/14～3/29	タイ王国	テナガザルに関する研究打ち合わせ及び資料収集
生態保全	半谷吾郎	2011/3/14～3/22	マレーシア	野外実習及び資料収集・施設見学・研究打ち合わせ
進化形態	濱田穰	2011/3/14～3/26	ブータン王国・バングラデシュ人民共和国・タイ王国	アッサムモンキーの形態学的調査・霊長類分布調査、研究打ち合わせ
系統発生	西村剛	2011/3/20～3/26	フランス共和国	化石標本の CT 撮像及び化石標本観察・資料収集
思考言語	松沢哲郎	2011/3/24～3/30	マレーシア	野生オランウータンの生態調査、情報収集・施設見学

(2) 大学院生

所属	氏名	期間	目的国	目的
認知学習	澤田玲子	2010/4/15～4/22	カナダ	The 17th Annual Cognitive Neuroscience Society Meeting への参加・発表・情報収集
認知学習	福島美和	2010/4/29～5/6	アメリカ合衆国	American Educational Research Association2010 出席・発表・資料収集
系統発生	伊藤毅	2010/5/23～7/24	フランス共和国・ベルギー王国・スウェーデン王国・ドイツ連邦共和国	サル頭骨のデータ収集・施設見学
思考言語	兼子峰明	2010/6/22～6/30	カナダ	ASSC14(意識に関する学術会議)参加・発表、研究連絡
思考言語	廣澤麻里	2010/7/22～8/23	マレーシア	野生オランウータンの行動調査

思考言語	山梨裕美	2010/7/31～8/10	スウェーデン王国	飼育施設見学・資料収集、国際応用動物行動学会参加・発表・資料収集
思考言語	小倉匡俊	2010/8/2～8/16	スウェーデン王国・オランダ王国・ドイツ連邦共和国	飼育施設見学・資料収集、国際応用動物行動学会参加・発表・資料収集
思考言語	MARTIN, Christopher	2010/8/23～9/2	ドイツ連邦共和国	コンピュータ制御による大型類人猿の認知実験の技術・情報交換・資料収集
思考言語	山梨裕美	2010/9/26～10/1	マレーシア	オランウータンの行動調査・研究打ち合わせ
思考言語	狩野文浩	2010/9/27～12/27	ドイツ連邦共和国	共同研究打ち合わせ・資料収集
遺伝子情報	早川卓志	2010/9/27～12/16	タンザニア連合共和国	野生ヒガシチンパンジーの行動観察・サンプリング調査
系統発生	西岡佑一郎	2010/9/28～10/15	アメリカ合衆国	アメリカ自然史博物館の標本観察、国際古脊椎動物学会に参加・発表・資料収集
系統発生	伊藤毅	2010/9/30～10/17	シンガポール共和国・ベトナム社会主義共和国	マカク属の頭骨計測・資料収集、研究連絡
系統発生	伊藤毅	2010/11/14～11/20	中華人民共和国	マカク属頭骨標本の計測・資料収集
統合脳システム	高原大輔	2010/11/12～11/19	アメリカ合衆国	第40回北米神経科学会大会参加・発表・資料収集
遺伝子情報	鈴木南美	2010/11/14～11/25	中華人民共和国	リーフモンキーの観察・試料収集
思考言語	山梨裕美	2010/11/30～12/22	マレーシア	オランウータンの行動調査・研究打ち合わせ
思考言語	兪リラ	2010/12/10～12/17	マレーシア	野生下および飼育下オランウータンの行動観察
社会進化	柳興鎮	2010/12/22～1/10	ウガンダ共和国	霊長類の野外調査実習
系統発生	西岡佑一郎	2010/12/28～2/10	台湾・インド・タイ王国	アジアの新生代哺乳類化石の発掘とデータ収集
遺伝子情報	鈴木南美	2011/3/11～3/18	中華人民共和国	野生サルの観察及び試料収集・研究打ち合わせ
思考言語	狩野文浩	2011/3/14～3/21	大韓民国	チンパンジー認知実験に関する共同研究打ち合わせ・研究成果発表
生態保全	大谷洋介	2011/3/14～3/22	マレーシア	野外実習及び資料収集・施設見学
生態保全	澤田晶子	2011/3/14～3/22	マレーシア	野外実習及び資料収集・施設見学

(3) 教務補佐員・技術補佐員・研究支援推進員

所属	氏名	期間	目的国	目的
系統発生	萩野慎太郎	2010/6/16～6/30	ミャンマー連邦	化石標本観察
思考言語	熊崎清則	2010/6/29～7/4	マレーシア	国際ワークショップ参加、情報交換・資料収集
生態保全	松原幹	2010/7/1～9/4	英国	飼育ニシローランドゴリラの社会行動と飼育環境の調査
ゲノム多様性	市野進一郎	2010/10/2～10/30	マダガスカル共和国	ワオキツネザルの野外調査・研究連絡
生態保全	MACINTOSH, Andrew J J	2010/11/15～12/6	英国・フランス共和国・スペイン	数理学モデル利用に関する講習受講、研究連絡
生態保全	伊左治美奈	2010/11/28～2/25	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査
ゲノム多様性	市野進一郎	2011/1/31～2/22	マダガスカル共和国	ワオキツネザルの野外調査・資料収集
ゲノム多様性	市野進一郎	2011/3/1～8/10	ドイツ連邦共和国	ワオキツネザルの長期データ分析・研究打ち合わせ

(4) 非常勤研究員

所属	氏名	期間	目的国	目的
認知学習	村井勅裕	2010/4/22～5/18	インドネシア	テングザル調査・情報収集
社会進化	坂巻哲也	2010/6/3～8/17	コンゴ民主共和国	ボノボの野外調査、同所的に生息する霊長類の野外調査、研究連絡
生態保全	松田一希	2010/6/9～9/3	マレーシア	テングザル追跡調査・研究打ち合わせ
社会進化	竹元博幸	2010/7/1～9/2	コンゴ民主共和国	野生ボノボの生態学的・遺伝学的資料の収集
社会進化	坂巻哲也	2010/10/2～2011/2/26	コンゴ民主共和国	ボノボの野外調査、研究連絡
生態保全	松田一希	2010/10/13～11/24	マレーシア	野生テングザルの調査・研究連絡
社会進化	竹元博幸	2010/10/19～12/19	コンゴ民主共和国・フランス共和国	野生ボノボの生態学的・遺伝学的資料の収集
認知学習	早川祥子	2010/10/26～11/20	アメリカ合衆国	テナガザルの行動調査・資料収集・映像撮影
統合脳システム	平田快洋	2010/11/12～11/19	アメリカ合衆国	第40回北米神経科学会大会参加・発表・資料収集
進化形態	加賀谷美幸	2010/12/12～2011/3/11	アメリカ合衆国	標本の観察・計測・資料収集
社会進化	竹元博幸	2011/1/18～3/19	コンゴ民主共和国	野生ボノボの生態学的・遺伝学的資料の収集
生態保全	松田一希	2011/2/10～3/27	マレーシア	研究打ち合わせ・テングザルの追跡調査
認知学習	早川祥子	2011/3/1～3/25	アメリカ合衆国	テナガザルの行動調査・資料収集・映像撮影

(5) 学振特別研究員 (PD)

所属	氏名	期間	目的国	目的
生態保全	RIZALDI	2010/7/14～7/23	イタリア共和国	ヨーロッパ行動生物学会参加、資料収集および霊長類研究データに関する分析、研究連絡

9. 非常勤講師

(理) 松浦健二(岡山大学大学院環境学研究科准教授)
「社会性昆虫学の新展開」
2010年11月4日～11月5日

(理) 三中信宏((独) 農業環境技術研究所上席研究員)
「幾何学的形態測定学：理論と応用」
2010年12月13日～12月14日

(霊) 吉川泰弘(北里大学獣医学部教授)
「サル類を用いた疾患モデル研究」
2011年1月27日～1月28日

(理) 河内山隆紀((株)国際電気通信基礎技術研究所
メディア情報科学研究所脳活動イメージングセンター
研究員)
「脳機能画像法入門」
2011年3月3日～3月4日

(理)：理学研究科 梓 (霊)：霊長類研究所 梓

10. リサーチ・アシスタント (R・A)

(氏名：採用期間)

西岡佑一郎：2010年6月1日～2011年3月31日
伊藤 毅：2010年6月1日～2011年3月31日
禰占 雅史：2010年6月1日～2011年3月31日
石川 直樹：2010年6月1日～2011年3月31日

グローバル COE

小野 敬治：2010年5月16日～2011年3月31日
福島 美和：2010年5月16日～2011年3月31日
吉田 弥生：2010年5月1日～2011年3月31日
原澤 牧子：2010年5月1日～2011年3月31日

11. ティーチング・アシスタント (T・A)

(氏名：採用期間)

霊長類学・野生動物系科目に係るもの

兼子 峰明：2010年6月1日～2011年2月28日
鈴木 南美：2010年6月1日～2011年2月28日
小川 詩乃：2010年6月1日～2011年2月28日
清長 豊：2010年6月1日～2011年2月28日

全学共通科目に係るもの

佐藤 杏奈：2010年5月1日～2010年6月30日
2010年9月1日～2010年9月30日
磯村 朋子：2010年5月1日～2010年6月30日
2010年9月1日～2010年9月30日
大谷 洋介：2010年9月1日～2010年9月30日
兪 リラ：2010年9月1日～2010年9月30日

12. 年間スケジュール

2010年

4月5日 新入生オリエンテーション
4月21日 新入所員歓迎会
6月5-6日 共同利用研究会「第11回ニホンザル研究セミナー」
6月18日 本学創立記念日
7月31日-8月1日 犬山公開講座「サルを知る」
8月3-4日 大学院修士課程入学試験
9月6-7日 共同利用研究会「Quest for Coexistence with Non-human Primates－霊長類との共存を探る－」(犬山国際観光センター・フロイデ)
9月24日 運営委員会
9月25日 東京公開講座(日本科学未来館)
9月28-30日 全学共通科目「霊長類学の現在」
10月13日 サル慰霊祭
10月31日 市民公開
11月1-2日 共同利用研究会「社会・報酬・経済と脳」
12月18-19日 共同利用研究会「第6回比較社会認知シンポジウム」
2011年
1月24日 修士論文発表会
2月21-22日 オープンキャンパス
3月4-5日 ホミニゼーション研究会「近親交配再考：人類学から自然保護まで」
3月7日 運営委員会
3月7-8日 共同利用研究会「CTを用いた霊長類研究の新展開」